

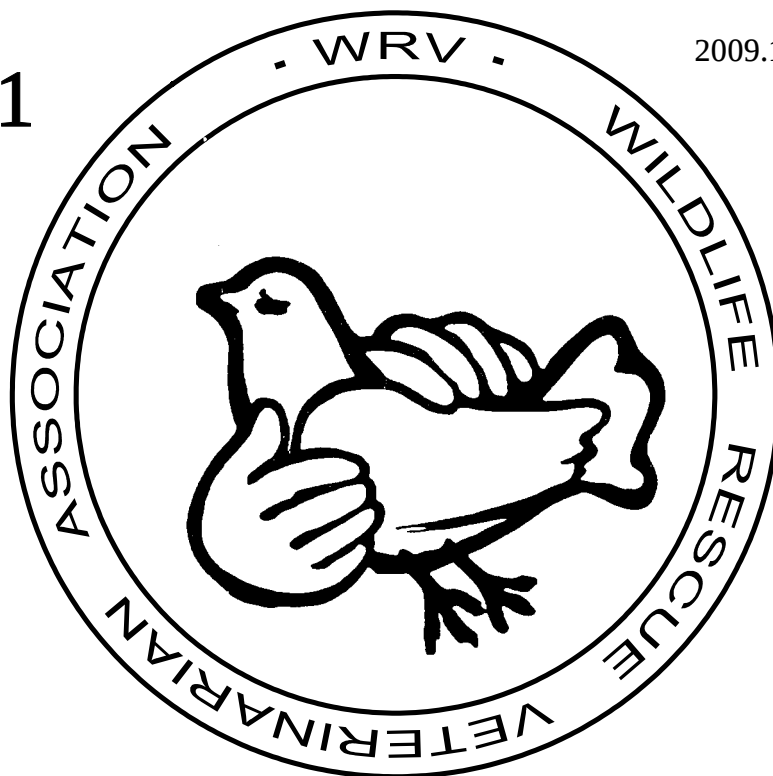
WRV NEWS LETTER

WILDLIFE RESCUE VETERINARIAN ASSOCIATION

特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

No.71

2009.12.25 発行



野生動物救護獣医師協会は、保護された傷病野生鳥獣の救護活動を通じて市民の野生鳥獣保護思想の高揚をはかるとともに、地球環境保護思想の定着化を目指しています。そのために、常に世界の情勢を学び、会員相互の連絡、交流を行い、治療、研究および知識の普及をはかり、社会に貢献していくことを目的としています。

No.71 目次

新聞記事紹介	2
講演のご紹介「野鳥の診療カルテ集計」	3-8
ちょっと一息	9
寄稿写真のご紹介	10
寄付のお礼とお願い	11
事務局日誌	12

◆◆◆◆◆新聞記事紹介◆◆◆◆◆

♪ 神奈川支部の活動が新聞に掲載されましたのでご紹介します ♪



東京新聞

2009年7月25日付



東京新聞

2009年9月3日付

この記事は、神奈川支部と神奈川県が協働で養成した野生動物リハビリーターが、麻生警察署に連絡し、動物病院の指導の下で飛行訓練等のリハビリを行い、放鳥したものです。放鳥結果を署に報告したところ、署員が感銘し新聞記者に通知して掲載されました。

～講演のご紹介～

第 30 回動物臨床医学年次大会の一般口演の内容をご紹介します。

野鳥の診療カルテ集計

大窪 武彦¹⁾ 須田 沖夫¹⁾ 金坂 裕¹⁾ 馬場 国敏¹⁾ 池谷 奉文¹⁾

Takehiko OKUBO Okio SUDA Hiroshi KANESAKA Kunitoshi BABA Yasufumi IKEYA

柴田 真治¹⁾ 林屋 早苗¹⁾ 中津 賞¹⁾ 新妻 勲夫¹⁾

Shinnji SHIBATA Tetsuya Sanae HAYASHIYA Susumu NAKATSU Isao NIIZUMA

¹⁾ 特定非営利活動法人野生動物救護獣医師協会

はじめに

日本の野生動物保護・管理において傷病野生動物についての統計的な資料は少ない。WRV は 1991 年の創立時より、会員病院で野生動物を診療した際、WRV カルテに記録してもらい、そのカルテを本部で集計、分析してきた。日本全国から見れば少数の集計であるが、ある程度の野生動物救護の現状や傾向がつかめてきた。

保護鳥の多くは人間社会に適応した、スズメ、ツバメ、ドバト、キジバト、ムクドリ、カワウ、ヒヨドリ、トビ、カルガモ、メジロが上位 10 位で全体の約 66%を占める。

保護理由は、動けない・飛べない、巣の破壊、猫より救出、ガラス・建物・電線等に激突、交通事故、誘拐、釣り糸が絡まる等で、いずれも人間社会との関係が深い。保護された鳥類の臨床学的診断は、骨折・外傷・打撲

等の外科的なものが約半数を占める。予後は、約 30%強が野生復帰されている。死亡率も約 40%強認められる。

死亡原因等を追究することで、事故予防対策、野生動物の感染症問題、環境汚染問題等に繋げていければと思う。そのためにも集計する資料を今後さらに増加させることが大事になってくる。一方、行政は有害駆除対策動物の診療費補助をやめる例が多くなった。

方法

WRV 会員病院および協力施設等で行なった野生動物の救護・加療内容を WRV 野生動物診療カルテに記録していただき、2008 年 1 月 1 日から 1 月 31 日までの 1 年分を郵便やメール等で回収した。

そして、回収したカルテを WRV 事務局で集計、データベース化し、分析、毎年のように報告している（図 1）（図 2）。

結果

08 年 WRV カルテ集計は毎年、報告施設数、保護数などに変動がみられる。今年は行政関連の施設がぬけたので、県数と保護数が減少した。

保護動物は毎年、鳥類が 9 割以上であり、哺乳類は 1%以下である。爬虫類が 1%以下である。保護鳥上位ランク種は、06 年と比較して上位 4 位までは順位変動はなく、20 位まではアオバズクとオナガが抜けて、シロハラとキジが初めて入った。

10 位まではツバメ、メジロの他 8 種は捕獲

鳥や有害鳥であり、20位までのゴイサギ、コサギ、キジも同様である。有害駆除対象鳥は10位までで77.5%、10～20位で26.7%、全体では55%に達する。(図3)

市民の傷病野鳥保護理由は、飛べない・動けないが3割弱、事故が2割強、ヒナ・誘拐関係が1.5割位である(図4)。

獣医師の臨床診断では外科42%、内科28%、誘拐6%、汚染中毒4%、問題なく8%その他である。身体一般検査でみると骨折49%、外傷26%、打撲17%、咬傷9%、気嚢、そ嚢破裂1%などが外科である。外科疾患の多くは人間社会との関係が原因であるようである。

内科疾患は全体の28%である。その内、神経学的異常は19%、栄養不良16%、消化・呼吸器は1%、衰弱は59%である。栄養不良と衰弱は分類がむずかしく原因はいろいろあり、合計すると内科疾患の75%になり、全体でも21%になり、エサ不足の場合や事故後、エサが取れない場合等が考えられる。

神経学的異常は、人工物激突による物理的な事故や汚染による化学的に場合が考えられる。内科、外科以外のその他は誘拐、巣立ちの失敗、巣から落下など、ヒナや巣立ちヒナ関係で45%になる。保護全体では26.9%にもなる。また、特に問題なしも30%である、これもヒナ関係の可能性もあるので、市民教育がさらに必要と思われる。これらが小鳥類の飼育継続中の割合が多くなる原因の一つかもしれない(図5)。

鳥の種類によって臨床診断に大きな差を認める。保護数の上位10位までみると、外科はスズメ、ツバメが20%以下、シジュウカラ、ムクドリ、メジロで30%台、ヒヨドリ、カルガモが40%台、トビ、アオサギ、キジバトが60%台である(図6)。キジバトの他には小型

の鳥の外科は少なく、大型の鳥が多くなっている。これは都市部でのヒナ関係が多いためかもしれない。

予後に関しては、全体で32%が放鳥され、その内保護後3日以内が約4割、15日以内が6割強である。カルガモ、ムクドリ、ヒヨドリの放鳥が36%以上で、メジロは28%でアオサギは10%が放鳥される。

死亡は、アオサギが72%、シジュウカラ、トビ、メジロが50%以上でその他はスズメの37%の他は40%台である。死亡は全体で3日以内が65%、15日以内で84%に達する。

臨床診断で外科的疾患の多い鳥類は、サギ類、タカ類、フクロウ類とキジバトである。全種では、外科的疾患の割合は42%であり、サギ類は74%、キジバトは66%の高率であり、タカ類もフクロウ類も全種より少し高かった。

内科的疾患は全種では11%であり、サギ類は19%とキジバトは13%と低く、タカ類35%、フクロウ類は29%前後で高かった。汚染・中毒とその他全種よりみな低率であった。外科的疾患でみると、骨折は全種では41%であるが、サギ類は73%、タカ類64%、フクロウ類50%、キジバトは38%で全種より低い(図7)。

外傷は全種が26%であり、サギ類20%、タカ類16%、フクロウ類10%と低く、キジバトは37%で高かった。打撲は全種は17%であり、フクロウ類30%で高く、サギ類は3%とキジバト4%と極端に低率である。咬傷は全種で9%であり、サギ類は1%と少なく、タカ類、フクロウ類は0%である。一方はキジバトは16%で高かった。サギ類は羽根も足も首も長いので、人工物などに激突する割合が高く、骨折が多いのか。

タカ類は、羽が長く、飛行スピードがあり、鳥を追いかけるので、人工物に激突すること

が多いためか。フクロウ類は人工物に激突することも多いが、飛行スピードがゆっくりなため、打撲ですんでいる場合が多い。キジバトは他の動物のエサにもなるので、猫などの咬傷が多くなっている(図 8)。

診断主因と予後について、全種の放鳥率は 33%であり、サギ類では 19%と低率である。ササゴイは 50%、ゴイサギ 32%、ダイサギ 25%、チュウサギ 22%で、それ以外は 16%以下でアマサギ、ミゾゴイ、ヨシゴイは 0%である。タカ類は 28%の放鳥率であり、全種より低い。クマタカ 100%、ノスリ 50%、チョウゲンボウ 44%と、トビ 33%は高く、ミサゴ、ハイタカ、チュウヒは 0%であった(図 9)。

フクロウ類の放鳥率は 31%で全種より少し低い、アオバズクでは 67%の高い放鳥率であるが、フクロウ 29%、オオコノハズク 20%と低く、コノハズク、コミミズクは 0%である。キジバトの放鳥率は 33%である。

死亡率は全種では 46%である。サギ類は 72%の高率である。サギ類ではミゾゴイ、ヨシゴイは 100%が死亡で、ダイサギ、アマサギ、アオサギ、ゴイサギは 72%以上であり、ゴイサギ 63%、チュウサギ 66%、ササゴイ 50%である。打撲は 100%、骨折は 78%が死亡し、外傷が 54%であった。

タカ類では 49%の死亡率であり、全種より少し高い。チュウヒ 100%、ミサゴ 67%、トビ 54%、ハヤブサ 50%、ツミ 50%、ハイタカ 50%である。クマタカは 0%であった。

フクロウ類の死亡率は 38%で、全種より低率である。フクロウが 46%、オオコノハズク 40%、コノハズク 40%と高く、アオバズク 22%、コミミズク 0%と低かった。打撲は 68%の死亡率で高く、外傷は 50%、骨折は 20%であった。

キジバトは 49%の死亡率で全種より少し高かった。

飼育継続では全種で 17%であり、サギ類では 10%で低く、アマサギは 25%、アオサギ 17%、チュウサギ 11%が飼育中であり、ササゴイ、ダイサギ、ミソゴイ、ヨシゴイは 0%であった。骨折 10%、外傷 7%の飼育継続である。

タカ類では、飼育継続は 23%と全種より高く、ハイタカ 50%、ハヤブサ 38%、オオタカ 35%、ミサゴ 33%、ツミ 25%と高く、クマタカ、チュウヒは 0%、トビ 10%、チョウゲンボウ 11%、ノスリ 17%であった。骨折が 31%で高く、外傷 14%、打撲 17%で低かった。

フクロウ類は 18%であり、コミミズク 100%、オオコノハズク 20%で高く、アオバズク 11%、コノハズク 0%であった。骨折は 50%と高く、外傷と打撲は 0%である。

キジバトは 15%が飼育継続で全種より低かった。

この様に、種によって診断主因と予後に大きな差が認められるが、診療数が少ないので、個体差なのか獣医師と施設の差なのか定かではない。提出カルテにもっと獣医学的診療内容を具体的に記載してくれると役立つ資料になると思われる。

考察

WRV 傷病野生動物診療カルテにおいて、動物分類において鳥類 90%以上、哺乳類 10%以下、爬虫類は 1%以下の割合は毎年大きくは変動しない。人と野生動物の共存関係は、十数年単位では大きな変化はみられないが、種別、地域、気象状況などによっては変化がみられる。

東京においては、この十数年間でメジロや

アオサギが増加し、オナガ、カケス、キジバトが減少した。気象変化でミズナギドリの保護数は毎年変動している。保護鳥の上位 10 位までの鳥の種類は変動しており、狩猟鳥や有害駆除対象鳥の割合は増加している。カルテ数や報告地域が増加すれば、野生動物の生態変化が人間生活環境変化といかに関連しているか解ると思われる。それにより生物多様性の保全、保護管理に役立つ資料ができると思われる。

多くの臨床獣医師は、コンパニオン・アニマルの診療の間に、野生動物診療をボランティアで実施しているので、経済援助の不足や施設、そして人材不足等から本来の獣医師の力量を十分に使っていない可能性が高いので、この十数年放鳥率が向上していない。糞便検査、外部寄生虫、血液検査、レントゲン検査やエコー検査など、多くの病院で可能なのに実際は残念ながら実施しておらず、そのため WRV のカルテから獣医学的な所見があまり見られない。診断が確実でないと、診療も不十分であり、治療率も悪くなる。衰弱している個体は、低タンパク、貧血のことが多いので、適正な高カロリー食を強制的に、十分に与えることで短時間に改善するケースもみられる。

外科においても開放骨折や複雑骨折は十分な診療をすることで良くなる事もあるが、亡くなったり、野生復帰できない事が多い。獣医学診断を十分して、トリアージを導入することが今日、行政はじめ獣医師に求められていると思われる（図 10）。

野生動物の診療には、動物愛護精神は必要であるが、野生動物や外来種の立場、必要性、性や生物多様性の保全、保護管理も考えて一頭一羽の生命を助ける事は大切なことではあ

るが野生動物は種、群、地域などのことを考えて、生態系全体の保全や管理を考えることが重要であるのでそれにそったガイドラインを作る時期ではないか。また、診療する獣医師や、救護する関係者への講習会やシンポジウムを開催し、現状や今後の展望を知ってもらうために WRV は指導的立場になる必要があるのではないかな。

WRV カルテがもっともっと充実すれば、疾患別や鳥の種別ごとの対応が解り、それなりの技術、知識、施設人材、資金などの適正配備をして、傷病野生動物が能率的に放鳥獣出来れば良いと思われる。

まとめ

1. 傷病野生動物の保護割合は鳥類 90%以上、哺乳類 10%以下、爬虫類 1%以下
2. 保護鳥上位 10 位までの変動は少ない。
3. 10 位までの 8 種は狩猟鳥や有害駆除対象鳥であり全保護鳥の 4 割以上になる。
4. 20 位までは地域、気象等によって、種の変動が毎年みられる。
5. 保護鳥の獣医学的診断は 4 割以上が外科的疾患である。
6. 外科的疾患は、主に骨折、外傷、打撲である。
7. 外科的疾患は鳥種により、外傷、骨折、打撲の割合が変動する。
8. 外科的疾患の放鳥率は、鳥種によって予後に違いを認める。
9. サギ類、タカ類、フクロウ類とキジバトは外科的疾患が多い。
10. 骨折部位など具体的な記載が少ないので分析が不十分。
11. 開放、複雑骨折の予後は悪く野生復帰

が難しい。

12. 打撲も鳥種により予後が変動し野生復帰が難しい。

13. 貧血、低タンパクの衰弱鳥も適切なエサ等を十分投与することで、改善が見られることもある。

14. 獣医師は自分の力量を野生動物診療に十分に活用していない。

今後の課題

1. WRVカルテの記載の充実と集計数を多くし、内容を分析し、報告する。
2. 獣医師に傷病野生動物診療の目的や意義等の共通認識をもたせる。
3. 動物福祉の5つの自由（解放）5 Freedomsと動物愛護を源に、トリアージの基本方針をつくる。
4. 獣医師に野生動物診療の目的の意義、教育を実施。
5. 傷病野生動物の原因究明と予防対策
6. 野生動物から感染症や汚染調査とその対応
7. 野生動物リハビリテーターの養成と活用
8. 市民への傷病野生動物救護法や意義などの啓発と活用
9. 放鳥獣出来ない動物を使つての野生動物保全と環境教育の充実

図 1

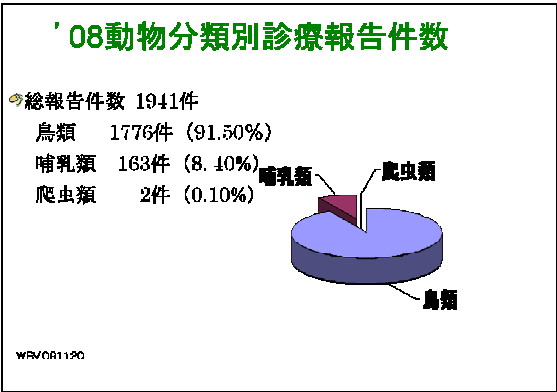


図 2

**'08鳥類報告種上位20種
134種1776件中**

種類	件数	%	種類	件数	%
スズメ	310	17.45	アオサギ	29	1.63
ツバメ	211	11.88	シジュウカラ	26	1.46
ドバト	176	9.91	フクロウ	24	1.35
キジバト	136	7.66	オオタカ	20	1.13
ムクドリ	72	4.06	ゴイサギ	19	1.07
カラス	71	4.00	コサギ	19	1.07
ヒヨドリ	70	3.94	シロハラ	17	0.96
メジロ	57	3.21	キジ	16	0.90
カルガモ	55	3.10	カワラヒワ	16	0.90
トビ	31	1.75	ハシホトテスナキドリ	16	0.90
上位10種合計	1189	66.95	上位20種合計	1391	78.32

WRV08

図 3

'08報告施設数と保護種数

県	施設数	鳥類	哺乳類	爬虫類	県	施設数	鳥類	哺乳類	爬虫類
北海道	2	24	6		愛知県	2	29		
福島県	1	4	1		京都府	1	54	2	
栃木県	1	20	2		滋賀県	1	39	3	
千葉県	2	134	6		岐阜県	29	311	55	
埼玉県	2	186	17		大阪府	3	114	1	1
東京都	18	291	18		広島県	1	4		
神奈川県	4	160	4	1	高知県	1	11	1	
群馬県	1	8	1		福岡県	1	83	9	
福井県	29	261	36						
静岡県	1	43	1		合計	100	1776	163	2

WRV091120

図 4

'08鳥類の臨床診断詳細 (外科的疾患)			
1776件中 738件 (41.56%)	詳細	件数	%
	骨折	300	40.65
	外傷	193	26.15
	打撲	123	16.67
	咬傷	69	9.35
	気嚢破裂	4	0.54
	そ嚢破裂	3	0.41
	その他	46	6.23

WFW/081120

図 8

'08サギ目、タカ目、フクロウ目の 外科的疾患					
種類	骨折(%)	外傷(%)	打撲(%)	咬傷(%)	その他(%)
全種(738)	40.65	26.15	16.67	9.35	6.23
サギ目(70)	72.85	20.00	2.86	1.43	2.86
タカ目(45)	64.44	15.56	13.33	0	6.67
フクロウ目(20)	50.00	10.00	30.00	0	10.00
キジバト(90)	37.78	36.67	4.44	15.56	5.55

図 5

'08鳥類報告数上位10種の臨床診断別件数 134種1776件中					
種類/診断	外科的 (%)	内科的 (%)	汚染中毒 (%)	寄生虫 (%)	その他(%)
スズメ(310)	19.35	27.10	8.71	0.32	44.52
ツバメ(211)	18.01	37.92	3.79	0	40.28
キジバト(136)	66.18	12.50	0	0	21.32
ムクドリ(72)	33.33	22.22	2.78	2.78	38.89
ヒヨドリ(70)	40.00	24.29	5.71	0	30.00
メジロ(57)	36.84	33.34	1.75	0	28.07
カルガモ(55)	43.64	32.72	1.82	0	21.82
トビ(31)	64.52	29.03	0	0	6.45
アオサギ(29)	65.52	27.58	0	0	6.90
シジュウカラ(26)	30.77	34.62	15.38	0	19.23

WFW/081120

※F/A、カラス除く

図 9

'08サギ目、タカ目、フクロウ目の予後

種類	放鳥(%)	死亡(%)	飼育継続 (%)	予後不明(%)
鳥類全種(1776)	32.49	45.83	17.01	4.67
サギ目(95)	18.95	71.58	9.47	0
タカ目(86)	27.91	44.19	22.09	5.81
フクロウ目(45)	31.11	37.78	17.78	13.33
キジバト(136)	33.09	49.26	14.72	2.94

WFW/081120

図 6

'08鳥類報告数上位10種の予後				
種類(保護数)	放鳥(%)	死亡(%)	飼育継続 (%)	予後不明(%)
スズメ(310)	32.26	36.77	25.48	5.48
ツバメ(211)	33.65	45.02	15.17	6.16
キジバト(136)	33.09	49.26	14.71	2.94
ムクドリ(72)	36.11	45.83	13.89	4.17
ヒヨドリ(70)	37.14	41.43	18.57	2.86
メジロ(57)	28.07	50.88	19.30	1.75
カルガモ(55)	40.00	38.18	20.00	1.82
トビ(31)	32.26	54.84	9.68	3.23
アオサギ(29)	10.34	72.41	17.24	0
シジュウカラ(26)	30.77	57.69	7.69	3.85

WFW/081120

※赤字は鳥類の平均を上回っているもの

図 10

'08まとめ：レッドデータブック掲載種

絶滅危惧種ⅠB類	クマタカ	1
	コアジサシ	1
	チュウヒ	1
絶滅危惧種Ⅱ類	ミソゴイ	1
	ハヤブサ	8
準絶滅危惧種	ヨタカ	3
	オオタカ	20
	チュウサギ	9
	ミサゴ	3
合計	ハイタカ	2
		49

図 7

'08サギ目、タカ目、フクロウ目の
診断主因

種類	外科的(%)	内科的(%)	汚染中毒(%)	その他(%)
全種(1776)	41.55	27.70	3.66	26.91
サギ目(95)	73.69	18.95	1.05	6.31
タカ目(86)	52.33	34.88	1.16	11.63
フクロウ目 (45)	44.44	28.89	0	26.67
キジバト(136)	66.18	12.50	0	21.32

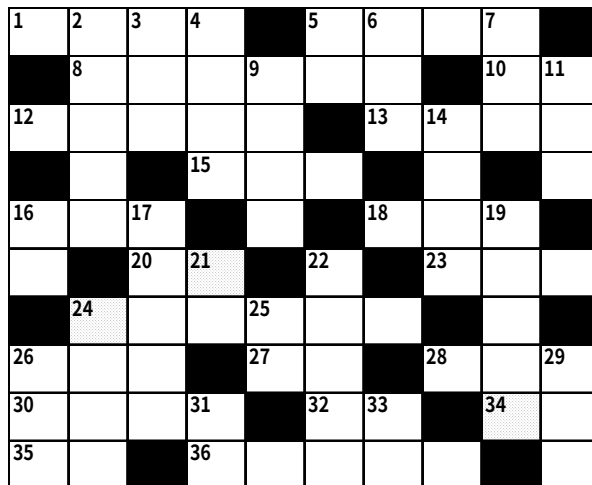
WFW/081120



ちょっと一息

会員の皆様から毎年寄せられる野生動物診療カルテを集計することで、野生動物の救護の現状をみることができます。

今号のニュースレターでご紹介した口演「野鳥の診療カルテ集計」の中で、2008年の救護件数の一番多い野鳥は何だったのでしょうか？下のクロスワードを解いて色の違うマス（21、24、34）の文字を並べ替えると答えがでてきます！（解答は11ページに掲載しています。）



答え)

.....

<タテのカギ>

- 2 頭が良くてすばしっこい。観光客のお土産を狙うこともあります。
- 3 お買い物の時、荷物を入れて押しています。
- 4 まんまるのお月様。
- 5 2010年の干支は寅。2011年は卯。2012年は？
- 6 眼にやさしい色。
- 7 似ていること。
- 9 屋根がついているベッドの屋根の部分。
- 11 男性の礼服。鳥になった気分？○○○服。
- 14 夜にホーホーと鳴いています。
- 16 ○○の上にも三年。
- 17 鳥じゃないのにクチバシがあって、卵を産みます。
- 19 漢字で書くと海雀。
- 21 「動物園」を英語で言うと？
- 22 「大海」を英語で言うと？
- 24 スキー板とセット。
- 25 サルの群れのリーダー、○○ザル。
- 26 赤い傘をさして放浪の芸術家。○○○の大将。
- 29 冬にコタツで食べる黄色い果物。
- 31 矢を放つときに必要な武器。那須与一は名手。
- 33 金づちで打ちこむ細く尖った道具。

<ヨコのカギ>

- 1 カニ風味の練り物。サラダに合います。
- 5 インフルエンザにかかったらお世話になるかも。
- 8 ディズニーランドのお化け屋敷、「○○○○○○マンション」。
- 10 帰る場所。
- 12 骨折の確認のために撮影します。
- 13 道理に合わないこと。
- 15 鳥の夫婦のことをこう呼びます。
- 16 水族館の人気者。ジャンプが得意です。
- 18 若いときには買ってでもするもの。
- 20 「はやにえ」をする鳥。
- 23 鵜飼いで活躍している鳥です。
- 24 冬のスポーツ！一枚の板に乗って滑ります。
- 26 穏やかに解決したい派。
- 27 回ったりすることもある、日本料理。
- 28 針、花火、小僧、男…連想できる動物は？
- 30 全力疾走することでもあり、奪い取ることでもあり・・・？
- 32 チベット地方のウシ科の家畜。
- 34 機械のこと。強い人と弱い人がいる。
- 35 DNAが入っています。
- 36 料理の時に細かく刻むこと。

☆ 寄稿写真のご紹介 ☆



ニホンアナグマ



ホンドキツネ



シカ



ホンドタヌキ



ホンドテン

貴重な野生動物の写真をお寄せいただきましたのでご紹介します！

カラーでなくて残念ですが、WRV ホームページで公開しているニュースレター71号ではカラーで見られますので、そちらも是非ご覧ください。

WRV HPアドレス <http://www.wrvj.org/>

撮影者：長島 順子さん（WRV 会員）

撮影場所：長野県上田市

事務局より寄付のお礼

寄付ご協力者（敬称略）（平成 21 年 8 月 28 日から平成 21 年 11 月 30 日）

10.03 動物感謝デー東京都立駒沢公園（募金箱）

1, 156

【人災による傷病野生鳥獣の救護活動募金】のお願い

WRV では、傷病野生鳥獣救護活動を迅速に実行するため、人員の派遣費および資材の調達の募金活動を行っています。ご協力をお願いいたします。（救護活動用基金）

郵便局加入者番号：00190-5-722368

加入者名義：WRV 人災募金

◇お知らせ◇

2009 年 9 月 30 日をもって、事務局の佐藤美由紀さんが退職されました。

これまで WRV の活動にご尽力いただき、ありがとうございました。



9 ページのクロスワード 解答

答えは「スズメ」でした！

1カ	2ニ	3カ	4マ	5タ	6ミ	7フ	8ル	9	10	11
	ホ	ー	ン	テ	ツ	ド	イ	エ		
12レ	ン	ト	ゲ	ン		13リ	14フ	ジ	ン	
	ザ		15ッ	ガ	イ		ク		ビ	
16イ	ル	17カ		イ		18ク	ロ	19ウ		
シ		20モ	21ズ		22オ		23ウ	ミ	ウ	
	24ス	ノ	ー	25ボ	ー	ド		ス		
26ハ	ト	ハ		27ス	シ		28ネ	ズ	29ミ	
30ダ	ツ	シ	31ユ		32ヤ	33ク		34メ	カ	
35カ	ク		36ミ	ジ	ン	ギ	リ		ン	

WRVニュースレター 原稿募集！！

WRVニュースレターに投稿してみませんか？

野生動物救護に関する症例報告、活動体験等の記事を募集します。

ご希望の方はメールにてお気軽にお問い合わせ下さい。

皆様の投稿をお待ちしております！！

★問い合わせメールアドレス kyugo@wrvj.org（担当：吉見まで）



事務局日誌 2009.9.26～2009.12.25

本部

9 月 25 日～26 日：第 11 回日本臨床獣医学フォーラム出席 ホテルニューオオタニ

9 月 27 日：WRV 講習会 鳥の骨折治療

9 月 27 日：傷病野生動物救護の現状と今後の課題 シンポジウム

9 月 30 日：WRV 事務局 佐藤美由紀 退職

10 月 3 日：2009 動物感謝デー開会式出席、ブース出展

新妻

須田

須田

新妻

新妻

10月9日、16日：東京環境工科専門学校 水鳥洗浄実習	皆川
10月25日：油汚染鳥救護等に関する専門獣医師等の養成 第2回講習会	皆川
10月25日：東獣60周年記念式典 椿山荘	新妻
10月26日～27日：平成21年度第1回油等汚染事故対策水鳥救護研修	須田
10月30日～31日：岐阜大学フェア WRV後援、ブース出展	須田
11月8日：油汚染鳥救護等に関する専門獣医師等の養成 第3回講習会	皆川
11月13日：三重県熊野市沖 フェリー座礁	皆川
11月14日：日野グリーンファンド報告会	須田
11月15日：第6回野生動物保護セミナーin 関東	須田
11月20日～22日：第30回動物臨床医学年次大会	須田・大窪
11月27日：田中良都議会議長 民主党のつどい参加	新妻
12月1日～2日：平成21年度第2回油等汚染水鳥救護研修	須田
12月1日：衆議院議員 菅原一秀後援会	新妻
12月6日：油汚染鳥救護等に関する専門獣医師等の養成 第4回講習会	皆川
12月8日：日本獣医師会 野生動物対策検討委員会	皆川
12月12日～13日：神戸アニマルケア国際会議 (knots)	須田
12月16日：愛鳥懇話会	新妻
11月7日～2月7日：油汚染鳥救護等に関する専門獣医師等の養成 川崎ボランティアセンター実習	皆川
11月21日～23日：油汚染鳥救護等に関する専門獣医師等の養成 猛禽類医学研究所 実習	皆川

東京都支部

11月14日：東京港野鳥公園油汚染水鳥救護実習	新妻
-------------------------	----

神奈川県支部

9月14日～28日：「ゴミに悩まされる野生動物」パネル展示（共催） 横浜市海の公園	皆川
9月16日～11月22日：リハビリテーター養成実践活動	皆川
9月20日：川崎動物フェスティバル ブース出展	馬場・皆川
9月21日：夢見ヶ崎動物公園動物園まつり ブース出展	皆川
9月26日：畜産まつり（川崎市獣医師会ブースにて参加）	馬場・皆川
10月1日～11月8日：「ゴミに悩まされる野生動物」パネル展示（共催） 県立生命の星・地球博物館	皆川
10月7日：動物ふれあいまつり（川崎市）ブース出展	皆川
10月11日：ボランティアセンターにおける神奈川支部活動 読売新聞掲載	皆川
10月18日：森とせせらぎまつり（川崎市）参加	馬場・皆川
10月20日：川崎市立小学校 出前授業「傷つく野生動物のために私たちにできること」	皆川
10月29日：神奈川支部の体験教育活動が読売新聞（教育ルネサンス）に掲載	皆川
10月31日～11月1日：エコ森ワンダーパーク（金沢動物園）ブース出展	皆川
11月1日：瀬谷区民まつり（瀬谷区獣医師会ブースにて参加）	皆川
11月28日：支部総会	馬場・皆川
12月3日～4日：川崎市立中学校 傷病鳥獣救護一日体験 ボランティアセンター	皆川

野生動物救護獣医師協会 (ホームページ) <http://www.wrvj.org/> (E-mail) kyugo@wrvj.org

NEWS LETTER No. 71 2009.12.25 発行

発行：特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

事務局：〒190-0013 東京都立川市富士見町 1-23-16 富士パルクビル 302

TEL: 042-529-1279 FAX: 042-526-2556

発行人：新妻 勲夫 編集文責：皆川 康雄